

「郷土芸術賞」に輝く

〈3〉

「私にはバレエしかない」と苦しみの中から一層固く決意した。

市で洋舞団を組織していた千田和子先生の所へ入団。その後、石川みな子先生の門下生となり、青春の情熱をバレエに燃やす。高校卒業と同時に石川先生のもとで内弟子修業。一年後、東京の石井不仁香スタジオでレッスンに励み、東京青年バレエグループに入会して活躍。昭和三十三年、二十三歳の

バレエとともに歩んできた三十四年間といっても決していい過ぎではない。バレエを愛し、情熱をひたすら燃やし続けている。幼いころからだが弱く、家の中で一人で遊ぶ、内気な少女がバレエを習い始めたのは六歳の時。札幌市で千田和子舞踊団に入団したのがきっかけだった。

父親が太平洋炭礦の職員だったこともあって中学生の時、釧路で一年四カ月を過ごし、また札幌へ戻り、そして東京と転々。しかし

「兄の家に身を寄せながらとにかく古い古場をさがして釧路市内を歩いたんです」というように市内



空間の美を一生追求していきたいと矢野さん

バレエ一筋の人生

受賞者の横顔

矢野 恒さん
(洋 舞)

の幼稚園を歩き回り、双葉幼稚園を借りた。この努力に父親も約束のスタジオを緑ヶ岡にプレゼントしてくれた。

「とにかく努力家。一度思い込んだら徹底してやる」と姉の渡辺登

「兄の家は身寄せながらとにかく古い古場をさがして釧路市内を歩いたんです」というように市内

「日本舞踊のもつ艶と内面的なものの表情を神秘さを魅力とするバレエにミックスしたい」とますます意欲的だ。

「日本舞踊のもつ艶と内面的なもの

札幌に生まれ、六歳の時に札幌

自分を苦しめ抜くことが成長に

時に釧路へ来、矢野バレエ研究所をつくる。その後生徒もふえ、四十年には全国コンクール上位入賞の生徒も出、現在三つのスタジオを持ち、年に一回定期公演会、発表会を開いて釧路の風土に根ざした創作バレエに取り組んでいる。四十歳。